



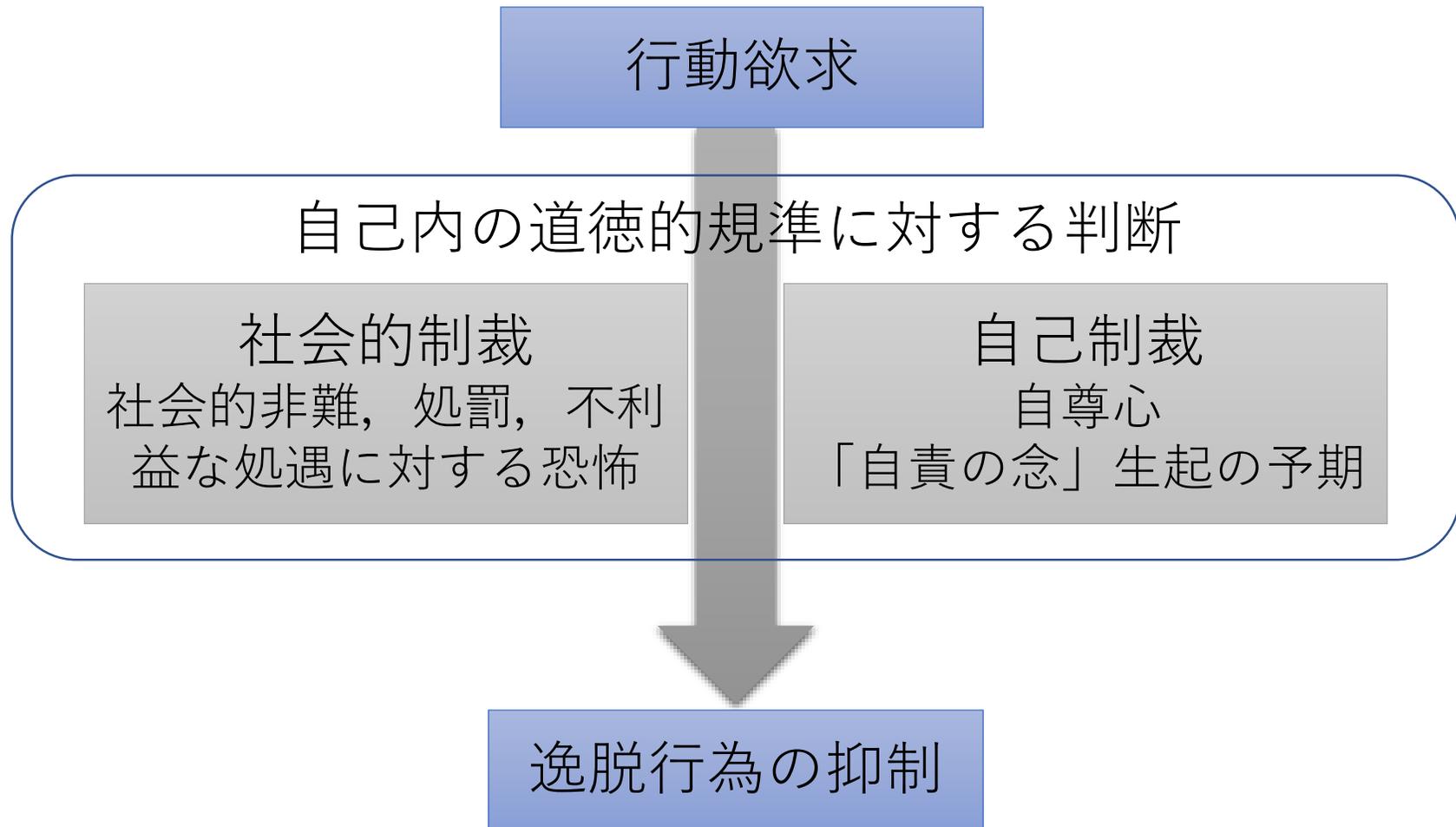
武力紛争解決・予防を目指した 教育プログラムが受講者の 道徳不活性へ及ぼす影響

池田 満 (南山大学)

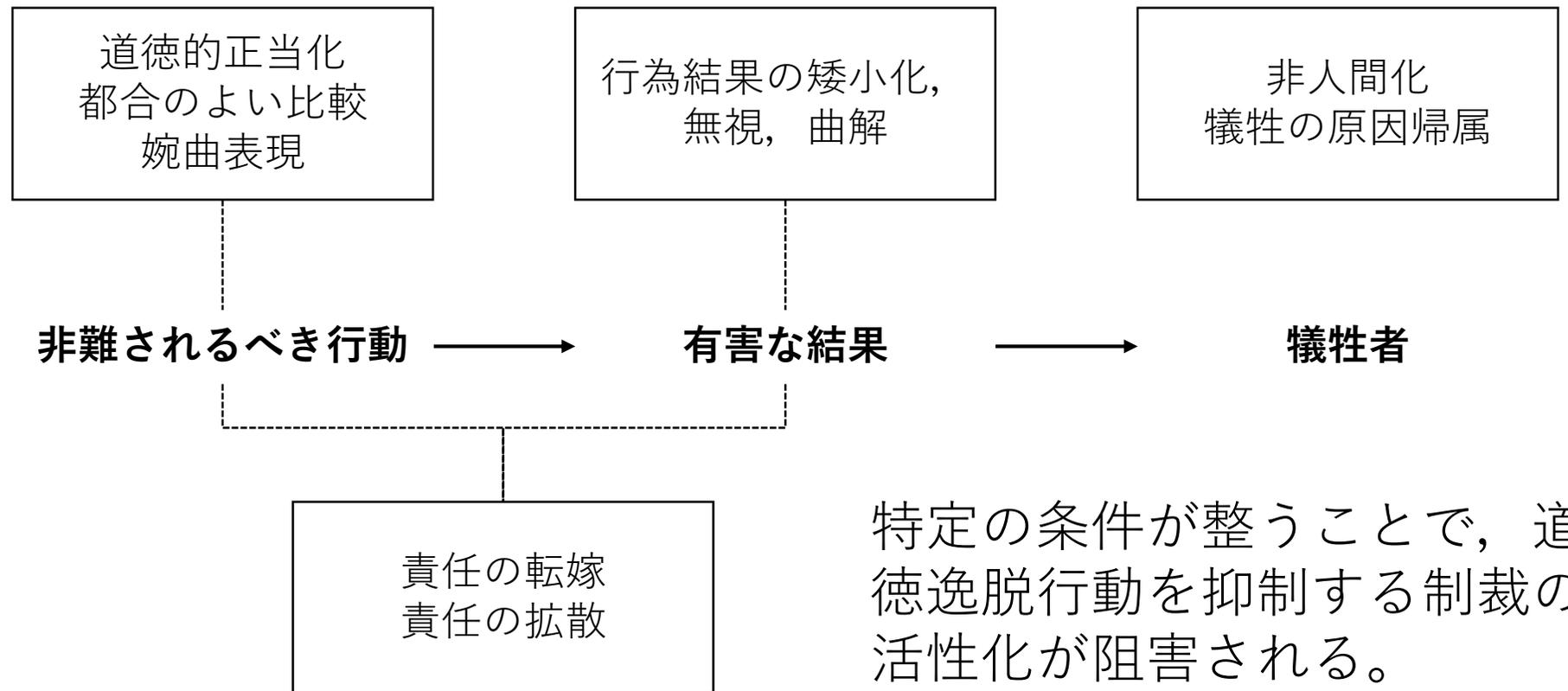
宮城 徹 (東京外国語大学) 福田 彩 (東京外国語大学)



道徳逸脱行動の抑制（Bandura, 2001）



道徳不活性による 逸脱行動生起のメカニズム



武力紛争における道徳不活性の要因

道徳的正当化

自分たちに害を及ぼす者に攻撃するのは正しい行為である

都合のよい比較

敵対する者の残虐さと比べれば、我々の行為は些細なものである

婉曲表現

これは戦闘ではなく、武力衝突です

責任の転嫁・拡散

“我々は”，こうした事態を看過できない

結果の矮小化，無視，
曲解

破壊対象は，軍事施設に限られている

犠牲の原因帰属

敵対する者が攻撃したから反撃をしたただけだ

非人間化

こんなにも残虐なことをするのは人間ではない

紛争に関わる道徳不活性の抑制要因

教育

多様な社会的つながり
多様な情報源へのアクセス
多様な視点の獲得

不活性要因となる情報を
クリティカルに分析

方法

- 対象者
 - 週1回3時間，5週間にわたる教育プログラムを受講した5か国合計74名の受講者
- 調査方法
 - オンライン調査サイトを使用した匿名調査
- 調査項目
 - 武力紛争・戦争を対象とした道徳不活性尺度（McAlister, Bandura & Owan, 2006）
- 分析対象
 - 事前事後調査の両方に回答をした22名

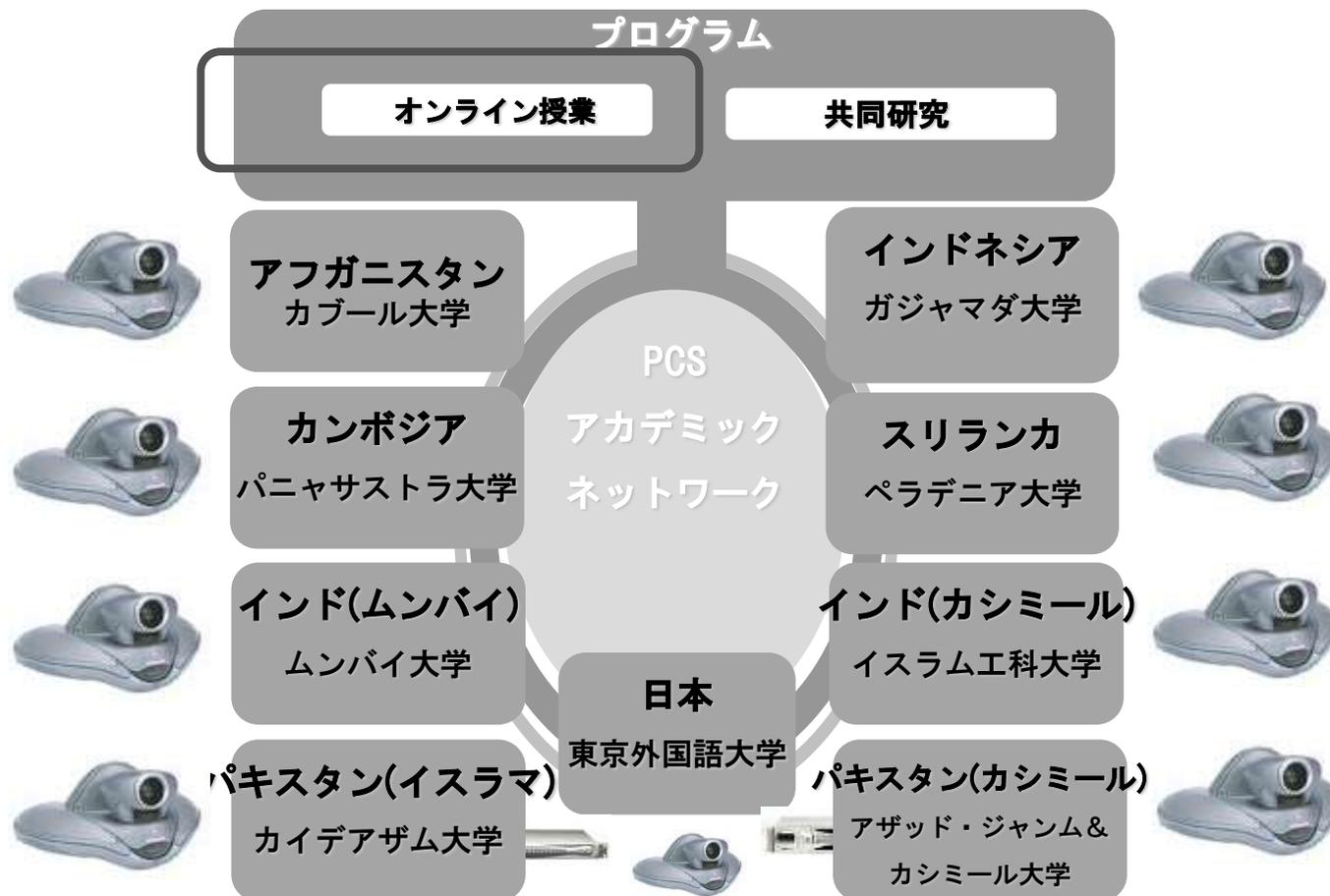
教育プログラムの概観

- 目的：平和構築・紛争予防学の理論の学習
 - ビデオ会議システム（同期接続）＋ウェブサイト
 - 教員による講義、参加者間での討論
- ゴール
 - 学生が、平和構築および紛争に対しての感度を上げるため、多元化された視野をもって自身らの紛争環境を批判的に検討できるようになること
- 内容
 - 平和・紛争の理解
 - トップダウンによる紛争解決方略
 - コミュニティによる平和構築
 - 正義と和解

グローバル・キャンパスプログラムとは

- 平和構築・紛争予防分野(PCS: Peace and Conflict Studies)での国を超えたアカデミック・コラボレーションの実現
- 国際連携による共同研究・教育の実施

グローバル・キャンパスプログラムの連携枠組



調査項目

- リード文
 - あなたは、どのようなときにあなたの国家が軍事力を使用するべきと思いますか？
 - 「軍事力の行使」⇒「戦争」「攻撃」などの婉曲表現
- 項目（合計**15**項目）
 - 結果の歪曲：**4**項目
 - 倫理的正当化：**4**項目
 - 責任の拡散：**3**項目
 - 都合のよい比較：**2**項目
 - 責任の帰属と非人間化：**2**項目

結果

	事前		事後		<i>t</i> (21)	<i>p</i>
	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>		
結果の歪曲						
無実の人が殺されるのを防ぐとき	2.05	1.21	2.77	1.54	-2.25	.035
被害が軍事目標に限られるとき	2.50	1.26	2.77	1.69	-0.95	.355
我が国の兵士に大きなリスクがないとき	3.91	1.06	3.36	1.56	1.50	.150
先制攻撃をしなければ、我が国が他国に攻撃されるかもしれない時	2.86	1.67	2.95	1.50	-0.19	.850
倫理的正当化						
国内の武力集団が、独立を宣言すると脅迫してきたとき	2.23	1.15	2.45	1.41	-0.89	.381
他国の紛争が我が国の経済的安定を脅かすとき	2.86	1.39	2.18	1.44	1.98	.061
我が国が意図的に侮辱され、名誉を汚されたとき	3.73	1.12	2.64	1.65	3.26	.004
友好国が、攻撃からの防衛を要請したとき	2.64	1.47	2.91	1.34	-0.92	.367
責任の拡散						
他国の国民が、民族的暴力からの庇護を求めてきたとき	2.23	1.15	2.09	1.34	0.40	.690
共通の危機に対抗するために、他国の攻撃に加わるとき	1.95	1.05	2.23	1.19	-0.95	.355
国連が軍隊に、国外での紛争解決に協力するよう要請したとき	2.82	1.37	2.05	0.95	2.70	.013
都合のよい比較						
平和的手法が、紛争解決に効果的でなさそうなとき	3.18	1.65	3.14	1.25	0.11	.915
武力行使が、それによる被害よりも甚大な被害を防止すると思われるとき	2.77	1.54	2.55	1.53	0.84	.411
責任の帰属と非人間化						
テロリスト集団が非人間的な暴力行為を計画していると報告されたとき	1.73	0.83	2.18	1.14	-1.86	.076
外国人グループによる獣のような人道に対する罪を罰するとき	2.09	1.34	2.18	1.01	-0.33	.747

考察

- 限定的な効果
 - 授業を通して視点が多様化したことで、道徳不活性を引き起こす要因の幅が広がった可能性
 - E.g., 「無実の人が殺されるのを防ぐとき」
 - 必要悪としての暴力や戦闘を認める視点
- 項目の妥当性
 - McAlister, Bandura & Owan (2006) の項目の多くは、国家間紛争を想定
 - 受講学生が経験している紛争には、内戦（イデオロギーや宗教、民族対立）が含まれている
 - 学生の経験や関心と不一致の可能性

教育プログラムの効果測定への視点

- 測定尺度の開発
 - 道徳不活性は、紛争という、道徳的ではない行為の発生を防ぐ上で重要な要素の一つ。
 - 本教育プログラムの内容や対象者、現代の紛争に即した尺度項目の作成が必要か。
- 授業内容の精錬
 - 視点の多様化が、道徳不活性を促進した可能性
 - 多様な視点を持つことを促すだけでなく、学生の視点の変化をモニタリングし、授業内容に反映させることが求められる。